

「お客様の不安を解消し安心を提供する」

東京代協 TP 記念品授与式と記念セミナーを開催



磯会長

東京代協の磯会長は「5年前の会長就任以来、東京代協の会員や代協全体の存在価値の向上に重点を置いて取り組んできた。会員の皆さんがフランクに情報交換を行い、切磋琢磨しあうことが自社の的確なマネジメントや会員代理店のスタッフの資質向上に寄与し、お客様に最高のサービスを提供することとなり、代理店の存在価値の向上につながることを確信している」と挨拶。今期のTPP認定取得者に対しては「認定証を常時携帯し、損害保険トータルプランナーとしての誇りをもって業務に邁進してもらいたい」と期待を示した。



金子会長

挨拶のなかで代理店の意義についてふれた日本代協の金子会長は「代理店の持続的発展のためには自らの価値を高めることが必要だ。保険代理店の仕事はお客様の不安を解消し、安心を提供するという安心提供業であり、不安解消業である」と私を考えている」とコメント。大きな環境の変化のなかで代理店がとるべきスタンスについて金子会長は、自身の趣味であるサーフィンを引き合いに「サーフィンの世界では、自身の力で前に進むという意味のGo For It (ゴーフォーイット) というかけ声を持って励まし合うこと

とがある。変化の激しい時代に必要要素の一つは行動力と実行力だ。明確な将来はなかなか見通せないとしても、5年後、10年後の企業像を自社なりに定めたうえで、変化する大波にチャレンジし続ける代理店でありたい」と呼びかけた。

損保協会の松嶋協会長は、損保協会の取組みのなかで代理店にも特に協力してもらいたいこととして「自然災害対応」と「事業者向け保険の普及促進」を挙げた。自然災害への対応については「東京では大きな自然災害リスクと向き合いながら事業や生活をしていかなければならない」と述べたうえで「(損保協会で作成している)さまざまなツールを活用して、お客様を自然災害の危険から守るための啓発活動やカーボンニュートラル

日本代協の東京ブロック(東京代協)は1月17日、損害保険トータルプランナー記念品授与式および記念セミナーを東京・千代田区の損保会館での会場実施とWEB視聴のハイブリッド方式で開催した。今年度、東京代協からは150名が損害保険トータルプランナー(TPP)の認定資格を取得した。認定授与式に先立ち、東京代協の磯利二会長、日本代協の金子智明会長、損保協会の松嶋真一郎協会長がそれぞれ挨拶し、認定取得者を称えた。

代理店の持続的発展のため 自らの価値を高めることが必要

挨拶のなかで代理店の意義についてふれた日本代協の金子会長は「代理店の持続的発展のためには自らの価値を高めることが必要だ。保険代理店の仕事はお客様の不安を解消し、安心を提供するという安心提供業であり、不安解消業である」と私を考えている」とコメント。大きな環境の変化のなかで代理店がとるべきスタンスについて金子会長は、自身の趣味であるサーフィンを引き合いに「サーフィンの世界では、自身の力で前に進むという意味のGo For It (ゴーフォーイット) というかけ声を持って励まし合うこと



(損保版)

第1~4月曜日発行
発行所 新日本保険新聞社
大阪市西区朝本町1丁目5-15
(郵便番号550-0004)
電話 (06) 6225-0550 (代表)
FAX (06) 6225-0551 (専用)
購読料 1か月2200円
(消費税、送料込み)
©新日本保険新聞社 2022

シンニチ保険Web
www.shinnihon-ins.co.jp
購読者専用バックナンバー
閲覧パスワード
Aurora
2022年4月4日 AMまで
※偶数月の第一月曜日正午ごとに変更



松嶋協会長

の実現に向けた行動を促す取組みに積極的に関わっていただき、社会からの期待に添えてもらいたい」と期待を寄せた。

事業者向け保険の普及促進については、コロナや社会のデジタル化の進

トータルプランナーとしての誇りを

展に伴い非対面のコミュニケーションが急増し、サイバーリスクの確率は高まっていくと指摘。サイバーリスクのうち事故により発生した対応費用や失った費用はサイバー保険で備えることができるものの、損保協会が実施したアンケートによると、サイバーリスク保険の内容を知っている中小企業の割合は15%にとどまり、実際にサイバー保険に加入している都内の中小企業は9.3%に過ぎない

とした松嶋協会長は「サイバーリスクをはじめ、今そこにあるリスクに対

令和四年新春 日本代協 東京ブロックセミナー「損害保険トータルプランナー」記念品授与式&記念セミナー



トータルプランナー認定取得の3氏

する気づきをお客様に認識していただくことが保険会社や代理店の使命だと考えている」と述べた。

コロナ禍での開催となった損害保険トータルプランナー記念品授与式では、認定取得者を代表して3氏が登壇し、金子会長から記念品が授与された。その後、日本代協教育委員会副委員長の雨宮新一郎氏の司会のもとで3氏へのインタビューが行われた。受講の理由について

林健太郎氏(日火通商株式会社)は「31年間の損害保険会社での勤務を経て、2年前に日火通商に転職した。保険会社でかつて担当していた代理店から最上級の知識を持つお客様に対応するこ

との大ききや業界の品質向上への思いを学んだことなどから、募集人となった今、自然とTPPの取得を目指すようになった」と述べた。

受講を通して感じたことについて原田直幸氏(株式会社ダイナインシユアランス)は「コロナ禍のためリアルでの講義を受けることはできなかったが、私としては逆に、自分が気になる点は(オンラインの動画で)何度でも確認することができたため、大変有意義な力リキユラムだと感じた。与えられた環境の中で自分なりにできることを最

大限にやっつけていくことで、こうした状況をプラスに捉えることができると思う」とコロナの状況を前向きに捉えた。

今後の抱負について井口秀明氏(株式会社ダイナインシユアランス)は「今回認定いただいたTPPはゴールではないので、受講を通じて習得した知識や情報を業務に活用し、お客様の意向に沿った的確な情報提供やご提案ができるような募集人になっていきたい。そうすることで必然的にお客様からの信頼を得ることができると思っている」と語った。